



神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

111

2021.3

Vol.24 No.4 通巻111号 2021年3月15日発行(年4回発行)



梅の花の蜜を吸いに来たメジロ



メジロのまん丸な目が可愛い



猛禽類 ノスリの飛翔



カラスの縄張りに入り、追われるノスリ

身近な自然写真、募集中！コメントもよろしくお願いします。

友の会では、今年も博物館情報コーナー（2階ライブラリー入口）にて、ミニ企画展示を開催します。友の会各グループの活動紹介や新年度の活動予定などを紹介しています。博物館にお越しの際には、こちらをご覧ください、興味ある講座への参加や、新たな講座の企画などにより、友の会を通して博物館や自然を楽しんでいただければ幸いです。

また、自然が大好きな皆さまの中で、『孤独の観察会？』を実施されている方がいらっしゃるかと思います。ご自身で撮影された、お気に入りの身近な自然の写真などがありましたら、ご提供ください。友の会通信の表紙等に使用させていただきたいと思います。

目次

事務局より	2
情報クリップ	2
活動報告	3
学芸員の雑記帳	4
行事案内	6

事務局より

2020年度友の会第3回役員会の開催

2020年12月19日（土）午後より、発送作業及び第3回友の会役員会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症防止のため、2つの会議室を利用し、ソーシャルディスタンスを確保して行いました。役員会では、事務局より来年度に向けた作業（会員証の更新等）及び役員会や総会の日程について提案がありました。総会については、コロナの状況が見えない中、どのような対応が出来るのか、等の議論を行いました。企画部からは来年度上半期の行事の確認がありました。またミューズフェスタに合わせ実施していたミニ展示コーナーについて、ミューズフェスタ自体は中止とのことですが、展示は今年度も実施することとし、各講座担当者へポスター作成の依頼をすることとしました。

2020年度友の会第4回役員会の開催

2021年2月6日（土）午後より、第4回友の会役員会を開催しました。

今回は緊急事態宣言中ということで、ZOOMによる初めてのオンライン役員会となりました。発送作業については、役員が博物館に行けないことから大変申し訳なかったのですが、博物館の職員の方をお願いすることとなりました。本当にありがとうございました。

役員会では、4月25日（日）に予定している総会について、当面実施する方向で作業を進める事としました。また総会イベントについては、身近な観察会（地学、昆虫、植物）を行うこととしました。コロナの状況に応じて変更等が発生する場合がありますが、ご参加をお願いします。なお、懇親会は行いません。その他、ZOOM等を活用した講座の実施について検討することなどが議論されました。

●友の会運営のお手伝いを募集！

友の会では運営のお手伝いをしていただける方を募集しています。資料の発送や会計事務、友の会通信の企画・作成、ブログ等での情報発信など、ご興味のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

（友の会事務局）

TEL: 0465-21-1515 E-mail: kpmto@ybb.ne.jp

情報クリップ

友の会会員数：399名（2021年1月31日現在）
正会員：398名／賛助会員：1名

●会員更新の手続きについて

会員更新の手続きは、お済みですか？ 2月に振込用紙を発送しておりますので、再度ご確認のうえ、更新の手続きをお願いいたします。

※振込用紙は、次年度の会費をご入金済みの会員様にも送付しております。ご了承ください。

●企画展「かながわ発 きのこの新種展」



開催期間：2月20日（土）※ ～ 5月9日（日）

※現在、臨時休館中のため、非常事態宣言解除後に予定している再開館と同時の開催になります。

観覧料：無料（常設展は有料）

きのこをはじめとする菌類には、身近なところにも「未知種」がまだたくさん存在します。

本企画展では、神奈川県産のものを中心に、近年新種として発表されたきのこの貴重な標本を多数展示します。ほぼすべての標本が、今回初公開！また、図鑑にほとんど掲載されていない、「幻のきのこ」も多く含まれています。さらに、新種の発表に至るまでの知られざる博物館活動の裏側や、アマチュア研究者の貢献についてもご紹介します。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館

企画普及課 TEL: 0465-21-1515 FAX: 0465-23-8846

最新の情報は、以下をご確認ください。

- ・ウェブサイト：<http://nh.kanagawa-museum.jp/>
- ・公式Twitter：@seimeinohoshiPR
- ・混雑情報Twitter：@seimeinohoshiCI

活動報告（植物観察会）

◆「身近な植物観察入門」

2020年11月28日(土)／博物館周辺7名／植物グループ

今年から始まった植物グループメンバーによる植物観察入門講座で、生命の星・地球博物館付近を探索し、身近な植物と接することを目的とする。毎回担当メンバーが変わる。本格的な寒さに向かい、新型コロナウイルスの感染者が急増しつつある中、今回は前回のリピーター1名を含む2名の参加があった。

まず、山神神社で、主に常緑の樹木カゴノキ、カヤ（つぼみ）、モミ、サカキ（黒い実）、ヒサカキ（黒い実）、タラヨウ（赤い実）、地面に落ちているスダジイのどんぐり、ヤブニッケイとニッケイの違いなどをひとつずつ確認する。落葉樹では、イヌビワ、エゴノキ、紅葉した葉が落ちてくる大木のケヤキ、くりの実に似た冬芽をつけたクリなどを観察する。花ものが少ないこの時期、シダに目がいく。ヘラシダやマメツタ、コバノヒノキシダ、ホシダ、ベニシダ・・・と次々名前があげられる。長興山紹太寺横の車道を進む。石垣にはこの時期無性芽をつけているイヌカタヒバを見つける。流れの脇の岩にはヘラシダに似た、クリハランが群生しており、葉の裏側についている孢子囊群を見る。シダ植物は孢子で増えるが、種類により孢子囊群が円かったり、線形だったりする。草本類ではヤマミズ、キチジョウソウの雄花の花がらや赤い実、シオデの黒く熟した実、ノササゲの紫色に熟し裂開した豆果などを観察し、時間もせまり、もと来た道に戻り、解散した。（植物グループ：佐々木シゲ子）



流れのそばの岩場に群生するクリハラン



黒く熟したシオデの実（液果）



裂開したノササゲ（豆果）



タラヨウの赤い実（核果）

学芸員の雑記帳①

学芸員 渡辺 恭平

コロナで自粛続き、友の会通信も中止のお知らせばかりで、寂しい限りです。中止の案内で誌面を埋めるばかりでは面白くないので、私が日々の活動で得たことや感じたこと、知ったことを雑記形式で書き下ろし、連載することとしました。私が専門とする昆虫を中心に、なるべく通信が皆さんのお手元に届いた後くらいに見られる生き物を対象にしたいと思います。

わかっていること、わかりやすいこと

コロナ禍によるイベント中止の嵐は寂しいものですが、日頃から雑務に追われている学芸員にとっては、資料の整理や研究活動などに、例年以上に時間を割ける状況にもなりました。災い転じて福をなす、ということで、私もいままで放置してきた「宿題」に取り組むことにしました。その一つが、寄生蜂以外のハチの勉強（修行）です。寄生蜂以外のハチには植物を食べるハバチの仲間、狩りをするカリバチの仲間、花に集まり花粉や蜜を集めるハナバチの仲間がいます。2014年以降、それぞれのグループで立て続けに図鑑が刊行されたのですが、カリバチとハナバチの図鑑にはそれぞれ使いにくい点があり、結局手を付けられずじまいでした。そこで、心機一転、勉強することとしました。

まずは関連する書籍や論文を（厚みにして30センチ以上）集め、博物館にある標本をかき集め（インロー型標本箱に標本をびっしり入れて15箱）、それらを調べてノートやスケッチ（図1）を作りながら作業をしました。その過程で、海外の論文を読んだり、師匠から標本をお借りして観察したこともあり、結局大半の分類群で同定の資料を作っていました。最終的には、作った資料と図鑑と組み合わせることで、ほとんどの種名が調べられるようになり、博物館にあった未整理標本の山がきれいに整理できました。

やってみてわかったことは、わかっていることと、わかりやすいことは違う、ということでした。世の中には、実際はわかるのに、わかりやすい資料がない、ということが山ほどあります。このようなものはひと工夫すれば、たちまち魅力的なものにな

ります。カリバチやハナバチはまさにそのような生き物だと感じた次第です。

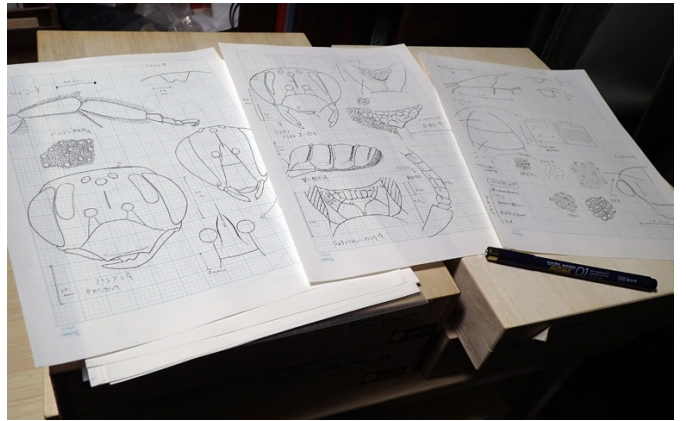


図1. 着々と溜まるハナバチのスケッチ、いずれ世に出したい。

カロメリッサと空木の花

先に書いた通り、最近私の中ではハナバチブームですので、ハナバチの話題を一つ。春になり、野山の緑が日に日に濃くなってゆくと、ウツギ（空木）の花が咲き出します。この花にはいろいろな昆虫が集まりますが、その中に1センチメートルほどの黒っぽいハチがいます。それが、今回紹介するカロメリッサです。

カロメリッサ (*Calomelissa*) はヒメハナバチの一群（亜属）で、学名をカタカナ読みしたものです。この仲間は日本に3種おり、いずれも春から初夏にかけてウツギの仲間を好んで集まります。神奈川県にはウツギヒメハナバチとコガタウツギヒメハナバチの2種がおり、特に後者は県内の里山ではウツギの花さえあればごく普通に見られます。

読者の中には、「ウツギヒメハナバチの仲間」と普通に書けばよいものの、なぜカロメリッサと書いたのか疑問に思う方もいるかと思います。その理由は、学名の意味がギリシャ語の由来の $\text{K}\alpha\lambda\omicron\sigma$ （美しい）と $\mu\epsilon\lambda\iota\sigma\sigma\alpha$ （bee、ハナバチ）によるもので、「美しいハナハチ」となり、カタカナ読みの響きを含めて、気品に溢れるからです。この命名者は平嶋義宏博士で、昆虫の業界ではハナバチ、特にヒメハナバチの研究者として知られていますが、生き物好きの間では学名の本をたくさん出している研究者というイメージが多いかもしれません。

ヒメハナバチの仲間は春から初夏の短い期間に出現する種が多く、白や黄色のふさふさとした毛に覆

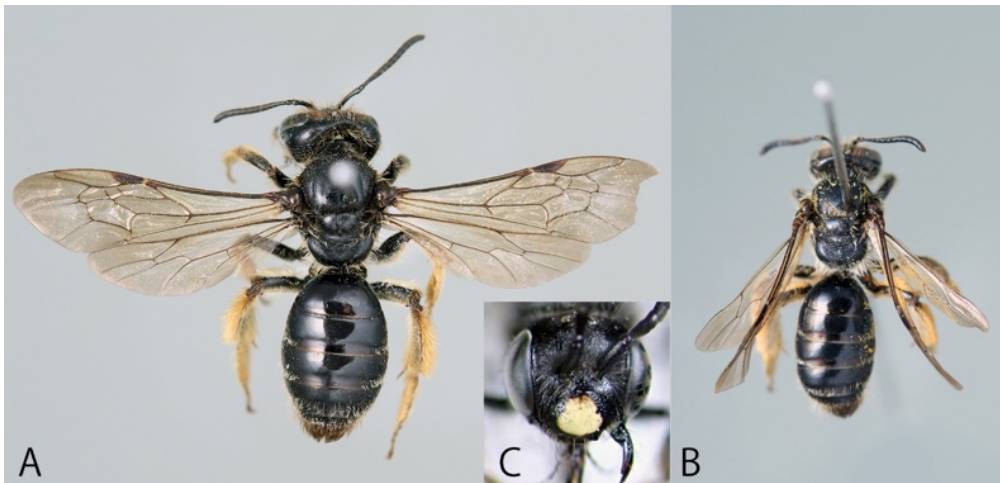


図2. ウツギヒメハナバチとコガタウツギヒメハナバチの写真. A, ウツギヒメハナバチ (A: KPM-NK 83910, メス) ; B, C, コガタウツギヒメハナバチ (B: KPM-NK 83909, メス ; C, KPM-NK 55270, オスの顔面) .

われた美しい種を多数含みます。その中で、どちらかといえば遅れて出現し、毛も少なめで黒っぽいこの仲間に、なぜこの学名を充てたのかはわかりませんが、初夏のポカポカとした野山で見る、ウツギの白い花と黒っぽいハチの組み合わせには、独特の美しさがあ、学名はそれを引き立てています。

先ほど述べたように、県内にはウツギヒメハナバチとコガタウツギヒメハナバチの2種が分布しています。この仲間、あるいは両種を正確に区別するには、顕微鏡やルーペで頭盾(とうじゅん)や前伸腹節(ぜんしんぷくせつ)という部位を観察する必要がありますが、大雑把には次の特徴で区別できます。カロメリッサ：体は黒っぽく、ツヤがある(図2A, B)。毛は比較的短く疎らで、黒色のものがある。オスの頭盾に黄色い斑紋がある(図2C)。ウツギヒメハナバチ：体長はメスで12-13 mm、オスで10-11 mm程度。頭盾は側方からみて平らで、先端がわずかに反る(図3A)。頬は幅広く、複眼の幅に近い幅(図3A)。コガタウツギヒメハナバチ：体長はメスで11 mm以下(たいてい10 mm前後)、オスで7.5-10 mm(たいてい9 mm前後)程度。頭盾は側方からみて弱く隆起し、先端は反らない(図3B)。頬はより狭く、複眼の幅より明らかに狭い(図3B)。ヒメハナバチは互いに似た種が多いので、ウツギの花以外で見かけた場合は、他にもいろいろ観察する必要があるので注意が必要です。両種とも平地、山地を問わずに見られますが、ウツギヒメハナバチのほうが局所的で、成虫は5月から6月に多いですが、箱根や丹沢の高標高地では7月にも見られます。巣は開けた地表に作り、特に前種ではしばしば

大きな集団となります。県外ではありますが、兵庫県朝来市の楽音寺にあるウツギヒメハナバチの営巣地は全国的に有名です。

カロメリッサの県内の記録は他のハナバチよりは充実していますが、ウツギヒメハナバチではまだ未記録の地域が多く、調査が必要です。また、私を含め昆虫愛好家はウツギの種類を細かく識別していません(ハナバチの図鑑で

も、ウツギ類としか書いていない)ので、どのウツギを好むのか、好まないのかは少なくとも県内では把握されていません。

野山でウツギの花が咲いていたら、ぜひ観察してみてください。あなたもきっとカロメリッサに会えることでしょう。

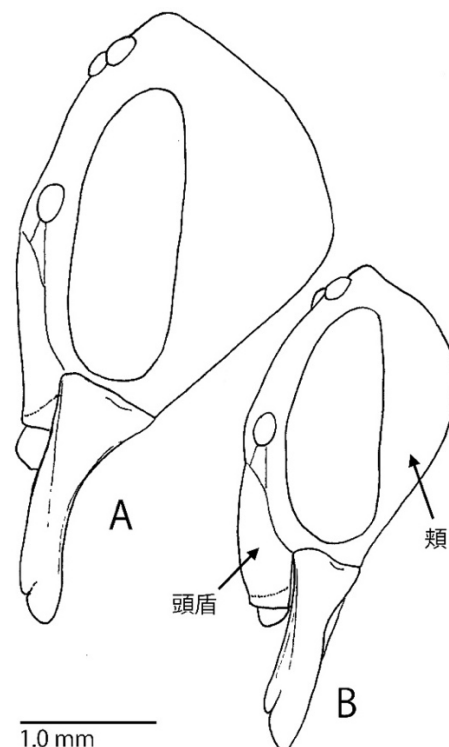


図3. ウツギヒメハナバチ (A: KPM-NK 83910) とコガタウツギヒメハナバチ (B: KPM-NK 55271) のスケッチ. メスの頭部を側方から見たもの。

行事案内

◆ 植物観察会『泉の森の春を楽しむ』

泉の森は引地川の水源地がある大和市最大の緑地です。県内では、主に多摩丘陵に分布するナデシコ科のワダソウの自生がみられます。緑豊かな森の中に、春の植物を探しに行きませんか。

日 時：4月18日（日） 雨天中止

場 所：大和市 泉の森

集 合：相鉄線 相模大塚駅 10:00

解 散：同駅 15:00 頃

講 師：田中学芸員

対 象：オープン・どなたでも参加できます

大人15名（応募者多数の場合抽選）

参加費：500円 会員外600円（保険・資料等）

締切り：4月6日（火）必着

連絡先：佐々木シゲ子 090-6518-7296

*新型コロナウイルス感染状況によっては、観察会を中止する場合があります。

詳細は返信はがきにてお知らせします。



泉の森のワダソウ

◆ 植物観察会『身近な植物観察入門』

博物館周辺を歩き、身近な場所の身近な植物を楽しみます。初心者中心です。

事前申し込み不要で、会員外の方も大歓迎です。

日 時：4月24日・5月22日・6月26日

各月の第4土曜日です。必ずしも連続して出席する必要はありません。春から初夏の生長著しい植物の移り変わりを観察してみませんか！

・・・以下は共通です・・・

集 合：博物館入り口付近 10時

解 散：同所 12時頃

参加費：友の会々員・非会員共に無料

当日の保険は植物グループで掛けます

担当・講師：友の会植物グループ

対 象：オープン・どなたでも

小学3年生以下は保護者同伴をお願いします

持ち物：飲み物、雨具など

参加上の注意点

●緊急事態宣言発令中は観察会は中止となります。

●緊急事態宣言発令中でなくても、コロナ感染の状況により中止にする場合があります。

参加される場合は観察会の有無を各月の担当者に問い合わせてください。

またこの場合は博物館友の会ブログでも中止のお知らせをします。

問合せ先：（博物館でなく下記に18:00以降）

観察会開催の有無につきましては各観察会の3日前から下記の担当に問合せ下さい

4/24（土）観察会：岩切 046-848-1798

5/22（土）観察会：浅川 0463-78-1605

6/26（土）観察会：田畑 0463-78-8014

●雨天中止

前日19時時点の予報で神奈川西部の午前中の降水確率が50%以上の時は中止とします。

担当者も出向きませんのでご了承ください。

予報は【TEL】0465-177で聞くことができます。

（気象庁の天気予報電話サービス）で決定します。

「神奈川西部の午前中の降水確率」に行着く迄少々時間がかかります。

◆ 昆虫観察会

『春の里山で逢うのはどんな虫？』

風薫る5月。虫たちの動きも活発になってきています。いろいろな虫たちはどうしているのでしょうか。どんな虫たちに逢うことが出来るか探しに行きましょう。

去年実施できなかった曽我丘陵の観察会をもう一度計画しました。状況によっては募集人数の減少や中止の場合もあります。

日 時：5月26日（水）9:30～14:30 雨天中止
場 所：曾我丘陵（小田原市曾我）
集 合：JR 御殿場線上大井駅 9:30
JR 国府津駅から沼津行 9:10 発
JR 松田駅から国府津行 9:05 発
解 散：同駅 14:30 頃
講 師：渡辺恭平学芸員
対 象：大人 15 名（応募者多数の場合抽選）
参加費：400 円／人（保険、資料等）
締切り：5月10日（月）必着
連絡先：金子 0465-34-9331（18:00 以降）
＊詳細は返信はがきにてお知らせします。



キアゲハ

◆ 植物観察会『ウメガサソウ咲く渋沢丘陵』

渋沢丘陵は大磯丘陵の西の端に位置します。今回は雑木林のウメガサソウやイチヤクソウ、樹々の緑を眺めながら丘陵の初夏を楽しんでいただければと思います。県内での分布が限られているモクレイシも観察できます。



ウメガサソウ

日 時：6月1日（火）雨天中止
場 所：秦野市渋沢丘陵
集 合：小田急線渋沢駅 9 時
帰 り：同駅 15 時頃
対 象：大人 15 名（応募者多数の場合は抽選）
講 師：田中徳久学芸員
参加費：500 円
締切り：5月18日（火）
申込み：往復はがきで申込み下さい。
＊詳細は返信はがきでお知らせします
連絡先：佐々木あや子 080-5686-6762

◆ 地学観察会

日 時：事前ガイダンス 6月5日（土）20:00～21:00
観察会 6月12日（土）10:00～15:00
場 所：秦野駅周辺
対 象：友の会会員
オンラインによる事前ガイダンス
（Zoom 利用）に参加可能者
＊詳細はチラシ、ブログにてお知らせします。



2018 年地学観察会情景

◆ 地話懇話会

日 時：6月23日（水）
場 所：博物館西側講義室
対 象：友の会会員
＊詳細はチラシ、ブログにてお知らせします。



2020 年 1 月地話懇話会情景

◆ 生物間共生講座Ⅷ『葉っぱの上で大勝負』

人間と同じように植物も感染症で病気になります。原因となる病原体の約80%は糸状菌、いわゆるカビで、野菜や果物の収穫に大きな被害を与えています。糸状菌から植物を守るためには、どのようにして植物に感染するのか、その戦略を知ることが重要です。糸状菌が巧妙な戦略で植物に感染しようとする一方で、植物もやられっぱなしではなく、様々な防衛策を持っています。葉っぱの上で繰り広げられる真剣勝負について、近年の研究からわかってきたことを中心にご紹介したいと思います。



日 時：7月11日（日） 10：30～14：30
状況が許せば講演会後、茶話会を催します。

場 所：博物館1階講義室（東西両側）

講演者：小玉紗代氏

摂南大学農学部 農業生産学科 助教

申し込み：往復はがき又はメールで必要事項を記して友の会事務局へ。メールは題を「7月11日共生講座申し込み」として下さい

アドレス：c.akahori@gmail.com

締め切り：6月26日（土）必着

参加費：1,100円／人（会員以外1,500円）

対 象：オープン、小学高学年以上

連絡先：080-1088-9269（菌事勉強会：赤堀）

◆ 友の会総会及びイベント

日 時：4月25日（日）13：00 ～

場 所：博物館講義室及び博物館周辺

イベント：『博物館学芸員による、身近な観察会』

地学観察コース、昆虫観察コース、植物観察コースを3コースで実施。

申込等：同封のチラシを参照ください。

友の会主催行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでの受付は原則出来ませんので、ご注意ください（講座によっては可）。ご不明な点は友の会事務局へお問い合わせください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接く連絡先へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

—広報部より—

今回より、渡辺学芸員による通信発行時に合わせた生き物をピックアップした「学芸員の雑記帳」が始まりました。お楽しみに！

また、表紙に掲載する写真を募集します。お気に入りの身近な自然の写真がありましたら、コメントを添えて下記に記載の編集事務局のアドレスまでお送りください。

次号は、2021年6月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会

Vol.24、No.4、通巻111号 2021.3.15 発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>

Twitter：@kpmtomo